

厚生労働省 令和4年度看護職員確保対策特別事業
看護基礎教育における地域住民と連携した教育事例収集事業

＼ 地域は教育の宝箱！ ／

地域と学校が共に作る 連携教育展開の手引き



1年次



4月～

基礎分野

泉州地域学[新]

1単位(15時間)
のうち14時間

事例
5

泉州で活躍する7人のプロフェッショナルから学ぶ「泉州地域学」 ～地域を支える人から地域の誇りを学ぶ～

教育事例の紹介

泉州地域を深く知るために、伝統、産業、文化などの各プロフェッショナルに依頼し、それぞれの仕事や役割を通して地域についてレクチャーを受ける。学生は地域を支える方の生の声を通して、地域を詳しく学ぶ。

初回授業の副学校長(看護職)によるオリエンテーションを経て、2回目以降の授業では、建築士(まちづくり隊長)を含む7人のプロフェッショナル(以下、講師)が順に登壇し、泉州地域の特徴およびそれぞれの職業に関連する講話を行う(別表参照)。いずれも地域に特化した興味深い内容で、スライドなどの教材づくりは講師おのおのがしてくださった。講話の内容について学校から細かな要望などは出さず、お任せしている。学生が授業ごとの学習内容をレポート(A4、1～2枚)にまとめてウェブ上で提出すると、講師はコメントをつけて返却して下さる。評価は教員が行っている。

地域住民に講話を依頼する場合、講話に不慣れであることも多く、準備段階で相談があった際は丁寧に応じること、不安をフォローすることが大切である。授業中、講師が言葉に詰まる場合があったら、教員が質問を挟んで間をつなぐなど、心理的な負担に配慮するとよい。

5回目の授業では、校外に出てタオル工場を見学する。タオルは我々の日常生活や医療施設でも欠かせないものだが、1887(明治20)年に国内初のタオル工場が創始されたのが泉佐野である。現在、泉佐野のタオルは「泉州タオル」の名称で、高品質タオルとして全国的に知られている。学校ではこれに着目し、学校オリジナルタオルのデザインコンペ(プロジェクト学習)を行っている。入学直後に開始する本科目で、学生間の親睦を図りながら地場産業に親しむことがねらいである。人気投票を行い、1位となったデザインで学校オリジナルタオルを発注し、オープンキャンパス来校者に配布することになっている。昼休みなどの時間を活用して、グループごとに「どんなデザインにしようか?」と楽しそうな表情で熱心に検討する姿が見られる。科目内でデザイン考案にあてる時間は約60分である。

ちなみに、1年次5月開始の「家族・泉州文化と多様性」(授業と演習の組み合わせ)では泉州地域のフィールドワークを行い、地域住民の暮らしや健康に関連する自助・互助を学習する。これは「泉州地域学」と連続するものである。2年次の「老年看護学Ⅱ」での市民参加型多職種連携研修会への参加も「泉州地域学」と連続性のある教育内容である。

関係団体、組織等 | 7人のプロフェッショナル(講師):建築士(まちづくり隊長)、泉佐野警察署の警察官、水なす漬物店経営者、泉州タオル会社代表者、郷土史家(泉州弁の語り部)、関西航空少年団の団長、だんぢり愛好家(福祉サービス提供会社代表)。

学生の学び

- ① 泉州文化の特徴や住民の暮らし、地域の仕事を知る。
- ② 泉州地域で活躍するプロフェッショナルの文化継承への思いを知り、地元愛を共有する。
- ③ 医療とは別職種のプロフェッショナルを理解する。
- ④ 患者を患者としてではなく、社会を支える人として捉える視点が養われる。
- ⑤ 人の健康には、地域の健康が大事であることを学ぶ。
- ⑥ 地域住民の看護師への思い・期待に触れる。



タオル工場見学

「地域住民との連携教育」のねらい

泉州の伝統、産業、文化、人々を理解する。

泉州地域の伝統、産業、文化などのプロフェッショナルをお招きし、それぞれの仕事や役割を通して地域についてお話しいただき、地域を支える方の生の声を通して、地域を詳しく学ぶ。

科目目標

泉州地域の文化と生活の理解を深める。

この科目で「地域住民との連携教育」を実施する背景や理念の紹介

教育目的「看護師に必要な知識・技術・態度とともに、豊かな人間性と専門職者としての主体性と国際的視野を持って、地域社会の総合保健活動に貢献できる看護の実践者を育成する」

「地域住民との連携教育」の実施に至るまでの経緯

卒業生の8割が泉州で就職するため、看護基礎教育において泉州の理解は必須であることから、2022年新カリキュラム始動に伴い、基礎分野の「人間と生活・社会の理解」に「泉州地域学」を科目配置した。この科目の設定にあたり、多数の外部講師に相談したところ、老年看護学方法論Ⅲの担当講師(グループホーム経営者、看護師)から、地域活性化を目指したNPO活動に携わる建築士(まちづくり隊長)の紹介があった。まちづくり隊長は泉佐野市出身で、「泉佐野を、若者と呼び寄せられるくらい魅力的なまちにしたい」という熱意を持つ方である。学校の教育方針と科目の意図をご相談したところ、NPO活動でつながりがあり地域で活躍する6名のプロフェッショナルを紹介して下さり、「泉州地域学」の講師陣(計7名)が決定した。

地域住民の様子・反応など

- 看護学生について、「人のためになりたいと思う貴重な人材で、学生が一生涯懸命行うプロジェクトは涙が出るほど感動する」「次年度もぜひ継続を」「看護師を目指す学生がいたら、こちらの学校をお勧めします」と、学校の教育に共鳴したコメントが聞かれた。
- 「まちづくりに関するNPO活動への学生の認知度を上げることができた」と喜びの声があった。
例) 地域住民が主催するオーガニックマーケットの開催イベントのボランティア募集など。
※これは、学校のボランティア単位(6時間/年)の選択肢の1つとしている。
- 授業の計画や資料作成、レポートへのコメント記入、タオル工場見学の調整なども快諾して下さった。



タオル工場のコットンの木の前で

2022年度に実施した「泉州地域学」の授業概要 (各2時間、初回のみ1時間)

各授業の講師	主な講義内容
1回目 副学校長 (看護職)	全体オリエンテーション：文化とは、多様性・国際性・看護の質の関係、看護の倫理綱領、多様性を高める、価値判断の源を一考する、よりよい看護提供のために文化的背景を理解する
2回目 建築士 (まちづくり隊長)	泉州地域の町づくりと住まい
3回目 泉佐野警察署の警察官	泉州地域の治安と防犯
4回目 水なす漬物店 経営者	泉州地域の食文化
5回目 泉州タオル会社 代表者	泉州地域の産業：泉州タオルを学ぶ タオル工場見学：1グループあたり30分、残り時間はグループワーク
6回目 郷土史家 (泉州弁の語り部)	泉州地域の文化：言葉、表現
7回目 関西航空 少年団の団長	泉州地域の産業：関西国際空港
8回目 だんぢり愛好家 (福祉サービス提供会社代表)	泉州地域の文化：風習、祭り

建築士(まちづくり隊長)は、全講義に参加し、ウェブアプリを利用して各授業内容の講師間での共有、学校との連絡調整、学生レポート対応など、本連携教育のコーディネート全般を担う。

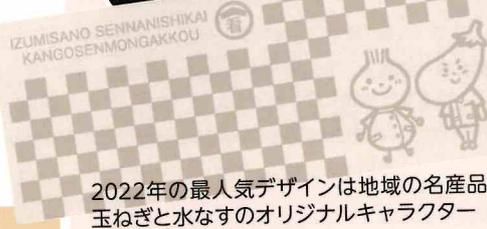
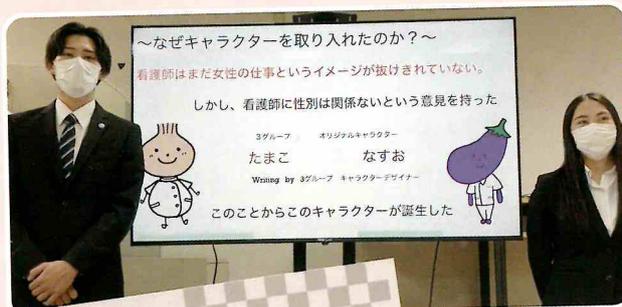
泉州ってどこのこと??

泉州とは、大阪府の南西部にあたる堺市、高石市、泉大津市、和泉市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市、岬町の13市町(9市4町)のことを指す。

費用発生について 講師謝礼：計90,000円(1回15,000円×6、国家公務員を除く)。
タオル(300枚) 製作費：94,710円。

【プロジェクト学習】タオルデザインコンペの概要

- ①説明は初回授業で行う。オープンキャンパスで配布する「学校オリジナルタオル」のデザインコンペを実施し、人気デザインでタオルを300枚製作すること、プレゼン動画のコンペも行い、人気動画をつくったグループはそのタオルが進呈されることを伝える。グループ(1グループ6人)はくじ引きでランダムに決定する。
- ②「泉州地域学」5回目の授業時間内で、グループごとに30分程度のタオル工場見学を行う。見学前後の時間は、タオルデザインに関するグループワークにあてる。
- ③グループでタオルデザイン案と3分以内のプレゼン動画を作成し、ウェブ上にアップロードする。多くの学生はこのプロジェクト学習を楽しみ、昼休みや放課後にも集まって企画の話合いや作業を進める。新入学すぐの時期の仲間づくりにも役立っている。全学生所有のタブレットの画像編集アプリを活用する学生が多い。
- ④各自が好きな時間にウェブ上に共有したタオルデザイン案やプレゼン動画にアクセスする。
- ⑤アンケートアプリを使った匿名投票を行う。2・3年生、教職員、「泉州地域学」の7人の地域住民講師も自由参加で投票する。
- ⑥人気デザインタオルは発注し、オープンキャンパス来校者に配布する。
- ⑦プレゼンの最多投票グループの学生にはタオル進呈の特典を設け、楽しく取り組めるようにしている。



PRポイント

- ・吸水性
- ・地域の環境への配慮
- ・オーガニックコットン
- ・SDGs

2022年の人気デザインは地域の名産品の玉ねぎと水なすのオリジナルキャラクター

同様の連携教育を導入・展開したい他校へのメッセージ!

副学校長 西田 好江先生より

本校では、「教室(学びの場)を地域に出そう」という意図を持って、できるだけたくさんの方々と触れ合うことで、地域で暮らしている人々から教えてもらって育ってもらえるようにさまざまな工夫をしています。そんな中、新カリキュラムに向けて、住民の方々の人生や生活そのものが教材になると考え、教材としての外部講師になってくださる人を探している時に、地域発展のために若者へのかかわりが重要と考えているまちづくり隊長と出会いました。まちづくり隊長の仲介で、さまざまなプロフェッショナルを校内に招致できました。看護師は看護のプロではあるがその他は素人ということがあるように、私たちが出会う患者さんは何らかの形で社会参加されている方で、そのような視点で教員自身も地域の文化や産業について一緒に学びおきたいという思いで地域の方々をお願いしました。このような授業は、全国どこの看護養成所でも実現可能だと思います。これからの時代に沿った新しい看護育成に対する情熱を、ぜひ地域の皆さまにお伝えください。地域側でも、看護師を目指す若者とつながりたいと思ってくださっている人がいて、トンネルの右と左から穴を掘っていると真ん中で出会うような運命的な出会いが日本全国の地域で生まれると思います。



看護基礎教育における地域住民と連携した教育事例集

取材メモ

H²S (Happy・Humor・Smile) を重んじて教育運営にあたり、10年後を見据えたビジョンを有する教員から看護基礎教育に強い情熱と思いを感じました。この情熱と思いが地域住民の活力とつながり、この科目の実現に至ったと感じました。



本冊子のデジタルデータは
一般社団法人日本看護学校協議会のホームページからご入手いただけます。

一般社団法人日本看護学校協議会

<http://www.nihonkango.org/>

日本看護学校協議会



2023年3月 発行